

## 旧富士川町の特徴的な植物

静岡県の植物は富士川を境として西南地域に植物に違いがあります。富士川が植物分布の境界であることから、富士川線（杉本順一氏）または牧野線（前川文夫氏）と呼ばれています。次に旧富士川町域には見られますが、旧富士市域では稀にしか見られない植物をあげます。

### ハナミョウガ

六月頃、赤い筋が入った白い花が咲きます。旧富士市域では岩本山の西側斜面に少し自生しているだけですが、旧富士川町域ではやや暗い林の中などに多く生えています。伊豆半島に多く、種子を伊豆縮砂（いずしゅくしゃ）と呼んで健胃薬に使われています。花が咲いていないときには、ツユクサ科のヤブミョウガによく似ています。



### ランヨウアオイ

丸火自然公園などに多いカンアオイの仲間ですが、葉に光沢があり、美しい模様が入るので、古くから栽培されてきました。旧富士市域ではごく稀にしか見られませんが、旧富士川町域の林の中では普通に生えています。カンアオイは11月頃、地際に目立たない変わった形の花が咲きますが、ランヨウアオイは5月頃開花します。



### アイナエ

明るい開けたところに生える小さな草で、夏に白い小さな花が咲きます。静岡県では比較的少ない草で、周りに大きな草のない芝生の中などが生育しやすく、旧富士市域では岩本山の芝生で採集記録があるだけですが、今回の調査では見つかりませんでした。旧富士川町域では、「はたご池」にたくさん生えています。



## サツキ

栽培されているサツキの原種ですが、1976年、岩本山の西側の急斜面で3株発見されるまでは、富士川には自生しないとされていました。今回の調査で旧富士川町域にも数株自生していることが分かりました。生えているところは全て富士川の絶壁なので調査しにくく、まだ見つかっていないところがあるかもしれません。



## フウラン

樹木に着いて生活しているランで、6.7月頃白い花が咲きます。姿形が上で、しかも良い香りをもっているのが古くから栽培されてきました。そのため、今では絶滅の恐れのある植物に指定されています。旧富士市域では見つかっていませんが、旧富士川町域では一箇所だけ確認されました。大切に保護しなければならない植物です。

